昭和62年度漁業後継者対策事業実施状況

県では、新しい知識と技術を持った漁村の人づくりが急務となっているため、組織的な学習や交流活動をとおして相互の緊密な連携と情報交換を行い、漁業後継者としての地域自立経営型漁業者を育成することを目的として漁業後継者対策事業を実施しています。

ここでは、昭和62年度漁業後継者対策事業の実施状況について報告します。

1. 漁村青少年協議会

この事業はグループ活動の自主的な運営を助長するため、グループの代表者を主体に漁業士、市町村及び漁業団体の職員並びに学識経継者をもって構成するものです。

漁村青少年協議会はグループの意向の集約、活動計画の調整及び活動実績の評価等を行うとともに漁業後継者対策事業計画や実施状況について協議します。任期は2年間です。

昭和62年10月20日付けで任期満了による新しい委員（本島地区8人、宮古地区5人、八重山地区5人）が発令された。

本島地区漁村青少年協議会

氏　名	代表区分	現職名	備考
苅　和　義	漁村青少年グループの代表	沖縄県漁協青壮年部連絡協議会委員長	会　長
名嘉清文	〃	石川市漁協青年部部長（青年漁業士）	副会長
渡久地政廣	〃	伊江漁協青壮年部部長	
比嘉行三	〃	国頭漁協青年部部長（青年漁業士）	
伊集　昇	学識経験者	沖縄県立水産高等学校教諭	
比嘉政次	漁業団体の職員	沖縄県漁連企画指導課	
当山政男	〃	恩納村漁協参事	
金城良勝	市町村の職員	糸満市役所水産係長	

宮古地区漁村青少年協議会

氏　名	代表区分	現職名	備考
宮国泰男	市町村の職員	平良市役所水産課施設係	会　長
前里吉昭	漁村青少年グループの代表	伊良部漁協青年部部長	副会長
友利春一	学識経験者	県立宮古水産高校教諭	
上里英男	漁業団体の職員	平良市漁協庶務係	
佐久本昌治	生産グループの代表	池間漁協組合員	

八重山地区漁村青少年協議会

氏　名	代表区分	現　職　名	備考
池田　元	漁村青少年グループの代表	八重山漁業協同組合代表監事	会長
金城洋二	〃	八重山漁業協同組合青年部長	副会長
屋比久清光	学識経験者	石垣市役所経済部水産課長	
仲本賢治	市町村の職員	石垣市役所経済部水産課漁政係技師	
上原亀一	漁業団体の職員	八重山漁業協同組合管理課係長	

2. 少年水産教室（夏期学級）

少年水産教室は、義務教育課程にある生徒を対象に水産に関する初歩的知識、技術及び後継者育成について集団指導又は教材の配布行うものです。普及所では、毎年夏休み期間を利用して、主として中学２～３年を対象に宿泊しながら５日間の夏期学級を水産高校の先生を講師にお願いして実施しています。今年度は22名の参加がありました。

(1) 場所及び期間　沖縄県水産業改良普及所　昭和62年７月27日～31日（５日間）

(2) 少年水産教室受講者

少年水産教室受講生

番号	受講者氏名	学年	学校名	漁協名
1	伊礼光国	3	伊是名中学	伊是名漁協
2	佐久川裕治	3	伊是名中学	伊是名漁協
3	名嘉直明	3	伊是名中学	伊是名漁協
4	仲田大之	3	伊是名中学	伊是名漁協
5	東江郁夫	3	伊是名中学	伊是名漁協
6	名嘉収	3	伊是名中学	伊是名漁協
7	平良辰末	2	伊是名中学	伊是名漁協
8	前川史也	2	伊是名中学	伊是名漁協
9	新垣力	2	伊江中学	伊江漁協
10	志良堂瑞樹	2	伊江中学	伊江漁協
11	底原敦	3	読谷中学	読谷村漁協
12	長浜宋睦	3	古堅中学	読谷村漁協
13	島袋一幸	3	古堅中学	読谷村漁協
14	宮城厚	2	古堅中学	読谷村漁協
15	上原国雄	3	具志頭中学	港川漁協
16	玉城清隆	2	具志頭中学	港川漁協
17	松川敏明	2	久部良中学	与那国町漁協
18	上地亮	3	久部良中学	与那国町漁協
19	渡久山朝広	3	石垣中学	八重山漁協
20	与儀正	3	石垣中学	八重山漁協
21	平良正二	3	石垣第２中学	八重山漁協
22	川田正也	3	石垣第２中学	八重山漁協

(3) 少年水産教室（夏期学級）時間割表

少年水産教室（夏期学級）時間割表

月日	曜	6時	7	8	9	10	11	12	13	15	16	17	18	19	20	21時
7月27日	月	起床	ラジオ体操	朝食	開校式	水産高校紹介	沖縄県水産業ビデオ講義	昼食	魚類処理加工実習			夕食		自由時間	室長会議	就寝
28日	火	起床	ラジオ体操	朝食	漁具結索実習			昼食	漁船機器の操作実習		レクレーション		夕食	自由時間	室長会議	就寝
29日	水	起床	ラジオ体操	朝食	漁船機関の操作実習			昼食	水泳訓練			見学説明会	夕食	自由時間	室長会議	就寝
30日	木	起床	ラジオ体操	朝食	北部養殖場見学（沖縄県栽培漁業センター）			昼食	北部養殖場見学（本部漁協）（一元水産）				さよなら営火			就寝
31日	金	起床	ラジオ体操	朝食 糸満市場見学 漁協	感想文	閉校式 終了証授与										

(4) 感 想 文

夏期学級最終日に受講生に感想文を書いてもらっています。その中から2点を記載します。

感 想 文……久部良中学2年　　松 川 敏 郎

この実習に来る前までは緊張していたが、今となっては楽しかった。初日、ラジオ体操ではじまり午後からは魚類加工実習にはいった。魚をおろしたことはなかったが以外とうまくできた。

二日目、漁具結索実習ではロープの結び方を二つ三つおぼえることができた。器機操作実習でもジャイロコンパスがどんなものなのかわかった。三日目、エンジンを動かしたり止めたりもしたし、ほかにもおぼえることができた。午後の水泳では泳ぐことがうまくなかったが、どうやって練習するかなど学ぶことができた。

四日目、北部見学はバスにのっている時間が長かったのできっかった。しかし、ここでも沖縄の海がよごれていると聞かされたことなど学ぶことが多かった。

この研修でたくさんのことを学んだ。漁具実習のロープの結び方を習ったことなどは、親父の手伝いなどでいかせると思う。ほかにもここで習ったことを帰ってから生かしたいと思う。そして、できたら来年もきたいと思う。

少年水産教室を通して……久部良中学３年　　上 地　　亮

ぼく達は沖縄の水産業を学ぼうと22名が集り、７月27日から７月31日かけて少年水産教室に参加することになりました。半分いねむりをしていたけれど、この教室で学んだことは大きかった。

４泊５日の間で、魚類処理加工や漁具結索、漁船機器の操作実習、水泳訓練、養殖場見学など、いろいろなことをやったが、そういうことは二の次だと思う。大切なことは、これからの沖縄の水産業をささえていくぼく達を認識することだと思う。だから、これからの水産業の未来を想像させるような講義をすべきだと思う。

なお、今年度の受講生から５名、沖縄県立水産高校に進学した。

地域別参加人員（少年水産教室）　昭和50年－62年　　362 人

	50年	51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年
地　域	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
八重山	10	5	11	10	7	13	8	6	4	4	3	5	4
宮　古	8	0	5	3	0	0	0	5	4	6	6		
伊江島	4	4	5	0	0	5	5	4	0	3	2		2
伊是名	0	10	5	7	0	3	0	0	0	4	4	4	8
本　部	0	4	3	0	0	0	0	4	4	3	2		
知　念	0	0	6	13	9	5	0	0	1	0		3	
具志頭	0	0	0	5	0	0	6	1	0	0	2		2
北　谷	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0			
今帰仁	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0			
勝　連	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0			
与那原	0	0	0	0	0	2	3	1	1	0			
糸　満	6	0	0	0	8	3	5	3	1	1			
那　覇	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄市	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0			
伊平屋	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0			
久米島	0	8	0	0	0	0	0	4	0	0			
名　護	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0			
恩　納	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			
石　川	0	5	0	0	0	0	0	0	0	4			
読　谷													4
与那国											1		2
中　城												1	
計	30	36	35	42	25	31	34	28	19	27	20	13	22

3. 交流学習会

この事業は、地域振興を図るため地域における未開発の技術又は経営手法の導入に当たって、後継者自らが地域の特定課題又は技術内容を十分理解し得るよう専門家を招き集団学習を行うものです。

今年度は8月26日恩納村瀬良垣荘において、講師に千葉県千倉町南部漁協参事の植木泰滋氏を迎え、「水産物の付加価値の向上、流通への取組み」と題した講演後、六・六方式によるグループ討議を行った。

当日は漁協青年部、研究グループ、漁協役職員、市町村水産担当職員、漁業団体職員50余名が参加し、活発な質疑応答と討議が行われ有意義な学習会となりました。また、学習会後の懇親会では相互の親睦を深めました。ここにその講演資料から一部を抜粋して紹介します。

千倉町南部漁協の昭和60年度事業状況は、蓄養事業（アワビ，サザエ，イセエビ等）で約20億円の売上高があり、冷凍加工事業では約14億円となっている。水産物の付加価値の向上を図り、積極的に流通への組り組みを実施して大きな成果をあげることができた。

このような発展の要因として次のことがあげられる。

(1) 社会（生活）環境の変化を読み取り、生協との協組間提携活動に専念するために漁民会社を設立したこと。

(2) 優ぐれたリーダーに恵まれたこと。大変な危機の中をやってきたが、優れたリーダーがいた。

(3) 職員に対する権限の委譲を行い活力を与えたこと。アワビの取引き時は1,000万円 単位のことがあるが、職員に権限が委譲されており、一職員が決裁するだけで取引きが成立するようになり、理事者との信頼関係が良くなり、職場に活力を与えることが出来た。

(4) 職員の取引上の若干の失敗ではペナルティーを与えず、反対にやる気を起こさせたこと。

(5) 漁協合併が実現出来たので、事業の規模も増大したこと。

(6) 産官学共同で事業を進めるのが理想であるが、まず、漁協・漁業者の問題意識とやる気・協力があったこと。

以上のとおりであるが、「意志のあるところ，必ず道はある」課題、問題を解決し前進させるため、目標・目的と手段を持ち、計画的に実践すれば必ず道は開けると考えている。

4. 漁村青壮年婦人活動実積発表大会

この事業は漁協青壮年および婦人・研究グループが自主的な活動実績を発表し、相互の知識と技術の交流を図り活動意欲を高めるとともに、地域の生産技術の向上、経営の改善等に寄与することを目的に開催するものである。

今年度の大会は昭和63年1月12日に那覇市内の水産会館で、水産振興大会と分離して開催され300余名におよぶ参加者があった。

なお、本大会で宮城県漁協青年団体連絡協議会長の及川道男氏による「漁協青年部実践活動について」と題しての講演も実施された。

大会発表者と最優秀賞受賞者

発表者	発表課題	所属
根間登志夫	漁場管理とグループ活動	平良市漁協狩俣漁業生産グループ
我那覇宗信	タカセ貝の増殖に取り組んで	恩納漁協青年部貝類研究班
仲門徳和	タイワンガザミの育成・放流について	与那城村漁協
宮城秀護	魚類養殖経営について	羽地漁協大宜味支部養殖研究会
久高照子	地域漁業の特性を生かした特産品作りとむら興し	伊良部町漁協池間生活改善グループ

◎ 最優秀賞：久高照子

その他、青年水産教室等については昭和62年度普及活動実績に概要を述べてあるので割愛した。